

令和8年度 ミッションおよび経営改革プラン

団体名	神戸新交通株式会社
------------	-----------

■ 観点① 公益貢献

ミッション①		
信頼される会社づくりの取り組み		
経営改革プラン①		
①	公益貢献の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員の職場会議への参加や1on1の充実など、役員と社員、上司と部下の対面でのコミュニケーションによる指導・啓発の頻度と内容を強化し、組織風土として服務規律遵守とコンプライアンス意識を定着させる。 ・ 目標管理の導入（係長級⇒次年度には担当者へ拡大を検討）と人事評価結果を昇給や賞与・昇格などの処遇へこれまで以上に反映させるよう制度や運用の見直しを行い、社員の行動改革を促す。 ・ 組織管理の専門機関・人材を活用し、外部の客観的視点から社内の課題を明確化した上で、実効性のある具体施策を実施していく。 ・ 全社員を対象としたコンプライアンス研修や、個々の社員の資質レベルに合わせた指導・教育プログラムなどを実施する。
	期待される効果	対話を通じたコミュニケーションによる指導・教育や風通しのいい職場づくりを強化するとともに、人事評価や給与等の制度面の見直しを行い、社員一人ひとりの意識向上と行動改革を確実に実現することで、安心と信頼をもってご利用いただける公共交通機関としての組織体制を確立し、市民の社会生活や都市機能の向上に貢献する。
	具体的目標・指標	鉄道事業に従事する社員として、公共貢献の責任とプロフェッショナルの職業意識を全ての社員に再徹底し、会社全体の組織風土として定着させることで、将来にわたりコンプライアンス違反を根絶する。

ミッション②

ヒューマンエラーによる輸送トラブル0件

経営改革プラン②

②	公益貢献の取組	<ul style="list-style-type: none">・ 運輸安全マネジメント制度に則ったPDCAサイクルに基づき、継続的に安全管理に関する各種取組のブラッシュアップを実現する。特に、内外で発生したヒューマンエラーやヒヤリ・ハット事例について、より深掘りした学習と徹底した要因分析に取組むほか、災害やトラブル発生を想定した実設訓練を実施し、多様なケースに的確に対応し得る知識・技能の向上をはかる。・ ①と同様の組織内でのコミュニケーションの強化や参加型の学習活動により、安全・安定輸送の意識・知識・技能の共有と世代間の伝承を促進する。
	期待される効果	上記の取組をより強化し、継続的・組織的・効果的に実施していくことにより、安全・安定運行への対応力を向上させることで、通勤・通学輸送、空港アクセス輸送、島内居住者の生活輸送の定時制を確保し、市民生活の利便増進に貢献する。
	具体的目標・指標	<ul style="list-style-type: none">・ 無事故運転の継続。・ ヒューマンエラーによる運行遅延等0件を目指す。

ミッション③

お客さまサービスの向上（駅トイレ、小児運賃割引等）

経営改革プラン③

③	公益貢献の取組	<ul style="list-style-type: none">・お客さまからの要望の多いトイレの洋式化を進めるため、和式の残るポートライナー6駅（三宮、中公園、みなとじま、医療センター、計算科学、神戸空港、六甲ライナーは全駅洋式化済み）のトイレ改修の実施計画を策定し、優先度を踏まえ順次改修を進めていく。なお、三宮駅については駅改良工事と併せてより利便性の高いトイレ整備を計画している。・子育て世代にやさしいまちづくりと外出機会の拡大に寄与するため、子供用のICカードを活用して、小児運賃の50%相当を割引またはポイント還元する夏休み期間限定の支援策を実験的に実施し、その影響や効果を検証する。
	期待される効果	<ul style="list-style-type: none">・全駅で洋式トイレを完備し、お客さまの重視度の高いニーズを満たすことで利便性と快適性を向上させるとともに、空港国際化に伴う外国人利用者のニーズにもお応えしていく。・子供割引施策を採算ベースで導入できるか検証することで、青少年科学館や美術館等の文教施設やどうぶつ王国等の娯楽施設が立地する強みを活かして、子育て世代にやさしい、健全な子供の成長に繋がるお出かけ利用の促進に資する環境づくりを目指す。
	具体的目標・指標	<ul style="list-style-type: none">・トイレの洋式化：現状の整備状況を踏まえて上半期中に実施計画を策定し、必要な予算を確保したうえで、来年度以降に計画的に洋式化工事を進めていく。・小児ICカード運賃の割引：今夏、小児運賃の割引施策を実験的に実施し、利用状況・効果・課題等を検証のうえ次年度以降の対応のあり方を判断する。

ミッション④

ポートライナー、六甲ライナーにおける混雑対策の検討、実施

経営改革プラン④

<p>公益貢献の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートライナーでは、市関係部局と連携して一連の三宮駅改良工事を進め、2030年（令和12年）予定の神戸空港国際定期便就航に合わせて、ホーム拡張やエスカレータ整備、新改札口開設等によるホーム上での混雑緩和のほか、新形式車両1編成の増備を進めて朝ラッシュ時間帯の増便を実施する。 ・六甲ライナーでは、朝夕のラッシュ対策として、案内要員の配置を強化して円滑なご利用に努めるとともに、沿線の学校や企業等に対して、実際の乗降量調査に基づく混雑実態を基に、ピーク時間帯を避けた通勤・通学のご理解・ご協力を継続してお願いしていく。加えて、最混雑時間帯の混雑を直接的に緩和することは困難であるため、前後時間帯におけるダイヤ設定の見直しについて検討を進める。（特に来年度から兵庫県庁機能の一時移転が始まることから、兵庫県とは詳細の調整を行う。）
<p>④ 期待される効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートライナーでは、2030年に節目を迎える国際定期便就航、都心・三宮再整備等の神戸市の主要プロジェクトの価値が、アクセス交通機能の側面からも極大化されることに寄与し、交流人口の拡大や都市の活性化に貢献する。 ・六甲ライナーでは、既存の限られた輸送力を最大限活用したうえで、お客様のご理解・ご協力もいただきながら、通勤・通学や社会生活を支える公共交通の機能を維持していく。
<p>具体的目標・指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートライナーの混雑緩和に関わる三宮駅関連の諸工事や車両増備、ダイヤ改正等の着実・計画的な進捗をはかり、2030年（令和12年）の完了を果たす。 ・六甲ライナーでは、来年度に見込まれる学生数の増加や兵庫県庁機能の一時移転に伴う利用者増加に対して、関係各機関との十分な協議により、各関係者のご理解・ご協力を得られる対応を調整・実行する。

■ 観点② 経営改善

ミッション①

経営基盤の安定化

経営改革プラン①

①	経営改善策	<ul style="list-style-type: none">・車両増備・更新をはじめとする大規模安全投資・修繕を着実に実施していくうえで、発注価格の厳正・適正な折衝・査定を行うほか、デジタル技術の積極的な導入による定型業務等の効率化を推進して経費削減をはかり、物価・金利の上昇や労働力確保のための人件費増加のカバーに努める。・空港発着便の増加に伴う空港利用者のポートライナー利用への誘導促進（PRや観光政策との連携など）や新規建設される島内マンション居住者の新規需要の利用促進のほか、島内の各種集客施設・企業・学校等との幅広い連携による共同イベント・PR・企画乗車券の実施など、集客力向上のための施策を展開し増収につなげる。さらに、駅周辺に賑わいを創出する取組みと併せて自社賃貸物件の有効活用を検討する。
	具体的目標・指標	2026中期経営計画で目標としている計画期間中の2026（令和8）～2029（令和11）年度通算での全事業経常損益の黒字化を達成するため、令和8年度には全事業経常利益予算240百万円を実現する。

ミッション②

新たな需要への対応（神戸空港国際化）

経営改革プラン②

②	経営改善策	2030年前後の神戸空港国際定期便就航やJR新駅ビル竣工等による都心・三宮再整備の進捗に伴う需要増加に対応するため、ラッシュ時の車内空間や旅行者向けの荷物スペース等も考慮した新形式車両1編成の増備を進め、2030（令和12）年度には朝ラッシュ最混雑時間帯の空港行き列車を2便/H増発して混雑緩和と利便性向上を実現する。また、三宮駅では市や関係先との詳細調整をとりながら、ホーム拡張やエスカレータ整備、新改札口開設、トイレ改修を含む内外装の美装化等の工事を進め、ホーム上での混雑緩和や移動円滑化、快適性の向上を2030（令和12）年度に実現する。
	具体的目標・指標	<ul style="list-style-type: none">・ 増備車両の基本仕様を決定・発注し、車両メーカーと連携して製造工程に乗せていくとともに、増発のためのダイヤ改正や信号設備等の改修を計画的に進めていく。・ 本格化する三宮駅ホーム拡張について安全確保を第一に着実に工事を推進するほか、美装化に係る設計業務を今年度内に完了させ、来年度の工事発注に向けて発注手続きと施工管理を適切に実施する。また、新改札口の開設については、お客様の安全な誘導を最優先とした改札口の運用形態および方針を慎重に検討するとともに、関係者間で詳細を十分に調整したうえで事業を推進していく。

ミッション③

観光施策や沿線事業者等との連携による増収と利便性向上（タッチ決済、QR乗車券等）

経営改革プラン③

③	経営改善策	<ul style="list-style-type: none">・ QR乗車券として、3月から関西エリアの交通事業者で連続2日また3日利用できる「KANSAI RAILWAY PASS LITE 2day・3day」（国内発売無し）、4月から神戸エリアの交通事業者や観光施設と連携した「神戸街めぐり1dayクーポン」のQR化と、阪神と連携した「ポートライナー・阪神24時間パス」の新規発売を行い、神戸エリアの観光誘致や神戸空港～大阪方面利用者の利便増進や増収寄与の効果を検証する。・ 沿線施設とのセット券のQR化や、神戸空港から姫路城（山陽電鉄）などの観光地向けの利用促進のためのQR企画乗車券について、導入の検討・調整を行っていく。・ クレジットタッチ決済については、PiTaPa、ICOCA等の交通系ICカードの利用が大半を占める現状の中で、特に外国人旅行者や地方からの来訪者を中心とした利便性向上サービスとして機能するようなPR等に努める。
	具体的目標・指標	<ul style="list-style-type: none">・ 既存セット券のQR化について、青少年科学館等の沿線施設と導入に向けて調整を行う。また、山陽電鉄のほか観光局の観光政策とも連携して、今後の観光需要開拓の可能性を継続的に検討していく。・ 上半期にはQR乗車券やクレジットカード決済の利用状況を把握・分析し、今後の展開方針に反映していく。